コミュニティ・スクール太宰府市立太宰府東中学校

学校だより

彩雲燦燦

第８号
令和５年１１月２２日
文責：校長　原　佳織

バッハ作曲の「フーガト短調」が音楽室から聴こえてくると思い出すことがあります。私は中学３年の４月に父の転勤のため、福岡から山口市へ引っ越しました。山口市は街の雰囲気も生活している人々もとても穏やかで、ゆるやかに時が過ぎていくような素敵なところでした。その雰囲気をつくっていた要因のひとつが、私が住んでいたところの裏にあったサビエル記念聖堂（左イメージ図）の存在だったように思います。記念聖堂から１５分に一度、時を知らせる鐘の音が聞こえていました。その鐘の音は、とてもあたたかく自分に寄り添ってくれるかのようなやわらかな音でした。また、クリスマスの時など聖堂内に入るとパイプオルガンの音が天上から降り注ぎ、自分を包んでくれるような感覚になったことを今でも覚えています。その当時のサビエル記念聖堂は、１９９１年に焼失してしまいましたが１９９８年に新しい記念聖堂に建て替えられています。私が聴いていた鐘の音は今はどんな音で山口の人々に安らぎをもたらしているのだろう。あの時に聴いたパイプオルガンの音は、今はどんな音を響かせているのだろう。ただ、建物がどんな姿に変わろうとも、どんなに時が過ぎようとも、サビエル記念聖堂の鐘の音は、私がそうであったように山口の人々の心を癒し続けているのだろうと思うのです。そこにいてくれるだけで、そこにあるだけでほっとする。その音が聞こえてくるだけで安心する。太宰府東中がそんな場所でありたいと思うのです。第３７期から第３８期へと生徒会がバトンタッチされた今だからこそ、これまで以上に互いに感謝し、尊敬し合える太宰府東中を「みんなで」目指すのだと強い気持ちになっています。

第37期から第38期へバトンタッチされた生徒会

晴れやかな笑顔から達成感と充実感があふれていた第３７期生徒会役員たち。「もっと自分の思いや考えを表現できるような学校にしたい」「もっと信頼し合える強い繋がりをつくりたい」そんな思いを込めた「打破∞深い繋がり～気づく力と支え合う力～」というスローガン。一人一人の力を集め、「太東のみんなで」これまでの自分を、これまでの太宰府東中を乗り越え続けようと走り続けてくれました。だからこそ苦しいことがあっても「みんなで」乗り越えることができる力が格段に身に付いたと感じています。心から感謝します。本当にありがとうございました。頑張り続けた第３７期の志をしっかりと受け継ぎ、深い繋がりを感じながら「みんなで」さらなる高みへ突き進むため、これまでの自分たちを「打破」し続けていくことになるでしょう。

「生徒が素晴らしい！」こんなに嬉しい言葉はありません！

１１月３日（金）に第６回九州学びの会研究大会／太宰府市立太宰府東中学校公開授業・講演会を開催しました。九州各県から１６０名をこえる参会者、そして本校が取り入れている「学びの共同体」理論の提唱者である東京大学名誉教授の佐藤学先生が全クラスの授業をご覧になりました。先生の第一声が「生徒が素晴らしい」でした。生徒にとって試行錯誤が必要で難易度の高い「ジャンプの課題」を提示し、「わからない」というつぶやきを重視しながら課題を解決しながら、互いに学びをふかめ合ったり、ひろげ合ったりする姿は、今求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現につながっていると実感しました。

東京大学名誉教授　佐藤学先生の講演会